洋上アルプス

No.328　2022年7月5日

発行
林野庁屋久島森林生態系保全センター

バックナンバーや屋久島国有林における入林申請等は
こちらにあります
http://www.rinya.maff.go.jp/kyusyu/yakusima_hozen_c/

鹿児島県熊毛郡屋久島町宮之浦1577-1
TEL 0997-42-0331　FAX 0997-42-0333

高層湿原（花之江河・小花之江河）の保全対策を検討（5月30日～31日）

令和4年度の屋久島世界自然遺産地域等の森林生態系モニタリング調査を実施する一般社団法人日本森林技術協会と九州森林管理局は花之江河と小花之江河の高層湿原の保全対策の検討会を2日間にわたり行いました。また、検討会には鹿児島大学下川悦郎名誉教授外3名の学識経験者が来島され意見をいただきました。

初日は現地で検討を行い、あいにくの天気でしたが、登山道からの雨水の流入や木道周辺の水の流れなどの状況がよく分かり、お互いに認識を共有したところです。

2日目は、当保全センターにおいて初日の現地検討を踏まえた意見交換会が行われ、花之江河衰退の要因と考えられる工作物などについて意見が出されました。

議論した内容については環境省や鹿児島県また各関係機関との調整を図ることが必要で、9月に開催される屋久島世界自然遺産地域科学委員会へ対策案等を報告することとしています。

花之江河現地検討会

高層湿原対策の意見交換

矢野九州森林管理局長が来島（6月8日～10日）

デッキ上から縄文杉を確認する矢野局長（写真左）

本年4月1日付けで九州森林管理局長に就任した矢野彰宏局長が屋久島を巡閲しました。

初日は、地杉加工センターの視察や屋久島森林組合を表敬訪問後に当保全センターにおいて「仕事はやるからには楽しく、そのためのサポートはしっかりする」と職員を激励しました。

二日目は、縄文杉、ウイルソン株、小杉谷と現状確認しながら荒川登山口までの現地視察を行いました。

三日目は、屋久島町役場の木造庁舎を視察するとともに、荒木耕治町長を表敬訪問し巡閲を終えました。

令和4年度 安房中学校森林教室 （5月25日）

安房中学校1年生（27名）を対象に、森林教室を実施しました。

生徒たちは、午前中に屋久島環境文化研修センターが主催するネイチャーゲームを体験し、午後から屋久島森林管理署及び当保全センターの職員で森林教室を行いました。

森林教室の前半は学校の先生方の要望により、林野庁の仕事について説明を行いました。まず林野庁が何の組織か、どのような取り組みをしているかといった基礎的なことを説明した後、林野庁の役職の一つである「森林官」に注目し、森林官の1日のスケジュールに沿って具体的な仕事内容の紹介を行いました。他に、職員がどのようにして林野庁に入ったのかを、学生時代からの経緯を踏まえて解説しました。

林野庁の業務についての説明

後半はヤクシカの被害状況とその対策をテーマに講話を行いました。説明の中で被害を減らす取り組みの一つとして「罠によるヤクシカの捕獲」を挙げ、生徒たちの前で実物のくくり罠を使い、仕掛け方を解説しました。その後「シカと森林のカード」という遊びながらシカと生物多様性について学べるカードゲームを実施しました。裏返しにしたカードをめくり、動物や樹木のカードを集めて森を作っていくのですが、シカのカードが増えすぎると一部の生き物が全滅してしまうので、生徒たちはシカのカードをどう調整するか皆でしっかりと話し合っていました。欲しいカードを引けるかどうかで一喜一憂し、大いに盛り上がりながらゲームを進めてくれていました。

森林教室の最後に、生徒たちから感謝の言葉をいただき終了しました。

この森林教室では、生徒たちに林野庁としての業務や、屋久島の生態系とシカが及ぼす影響について伝えることができました。屋久島環境文化研修センターの皆様とはお互いの環境教育の内容を見学し合い、より学びを深めさせていただきました。今後も、研修センターと連携し、森林教室の質の向上を図ってまいります。

「シカと森林のカード」の実習

くくり罠の仕掛け方の解説

屋久島高校に学校登山の事前指導を実施 （6月7日）

登山マナーについての説明の様子

屋久島高校において、7月に予定されている学校登山を前に、1年生 63名を対象として当保全センター職員による登山マナー等事前指導を行いました。屋久島高校の学校登山は毎年1年生が参加し実施されている行事で、郷土に伝わる「岳参り」の風習を体験し、屋久島の素晴らしい自然環境を知ることで、屋久島に生きる人間としての意識を高めることを目的としています。

例年学校登山の目的地は縄文杉でしたが、今年度は太鼓岩に変更となりました。

今回の事前指導では、登山を行う上での注意点や服装、登山マナーなど基本的な説明のほか、携帯トイレの利点や使用方法を解説し、携帯トイレの実物を用いた実演も行いました。

それに加えて、太鼓岩道中での危ない箇所や見所等も紹介しました。生徒たちは携帯トイレの実演に参加してくれたり、積極的に質問してくれたりしました。

今回の事前指導を通じて、生徒たちの登山マナーの向上と自然環境保全への意識を高めることができました。

令和4年度 シャクナゲ開花時期における登山指導 （5月24日～6月3日）

屋久島森林管理署と当保全センターでは、例年登山者が多くなる5月下旬～6月上旬のシャクナゲの開花時期に合わせ、高山植物の盗掘防止と、登山者のマナー向上を目的に森林パトロールを実施しています。

今年度は宮之浦岳や太忠岳などの4コースで、5日間延べ25名で実施しました。

梅雨時期で天候不安定だったものの、全てのコースをパトロールする事が出来ました。

パトロールの結果、登山者のマナー違反や大きな歩道の損壊等はありませんでした。

例年に比べシャクナゲの開花はまばらな状況ではありましたが、場所によっては満開のシャクナゲも散見され、登山者たちの目を楽しませていました。

また、初めてパトロールに参加する職員にとっては屋久島の森林の現況や登山者の状況把握など多くの学びの場にもなりました。

今後も地域の関係者と連携しながら、安全で楽しい登山となるよう呼びかけていくこととしています。

投石平パトロールの様子

開花したシャクナゲ

屋久島北部地域の垂直方向の植生モニタリング調査（令和2年度）

[標高400mプロット（シアンヌタ谷）] 確認種数：101種（平成27年度調査：72種）

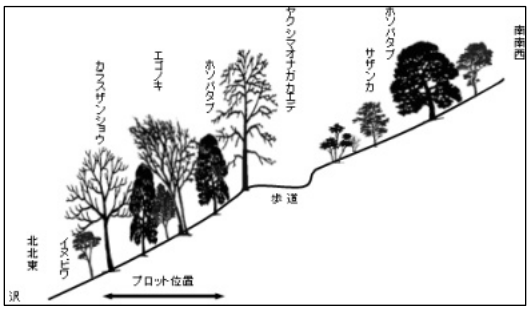
◆調査結果の概要　プロットは深い谷を縦断して設定されている。高木層は本数ではホソバタブが多いが、樹高が15mを超えるものはなく、ヤクシマオナガカエデ、エゴノキ、カラスザンショウといった樹高20m前後、胸高直径40～60cmに及ぶ落葉広葉樹の巨木が見られるのが特徴である。攪乱を受けやすい低木層・亜高木層の本数が他の標高の調査地に比べて少ないが、空中湿度が高く、岩石や立木に着生するシダ類を中心に、草本層は豊富である。侵食や岩石による高低差があるせいか、シカの食害はイヌビワに古い食痕が見られる程度である。

◆優占種の変化

階層区分	平成17年度	平成22年度	平成27年度	令和2年度
高木層（8.0m以上）	ホソバタブ	ホソバタブ	ホソバタブ	ヤクシマオナガカエデ
亜高木層（4.0m～8.0m）	ホソバタブ	ホソバタブ	ホソバタブ	ホソバタブ
低木層（1.2m～4.0m）	サクラツツジ	サカキ	サカキ	サザンカ
草本層（1.2m未満）	カツモウイノデ	カツモウイノデ	カツモウイノデ	カツモウイノデ

イヌビワに見られた食痕

矮小化して生育するリュウビンタイ



標高400mプロットの群落横断図

※群落横断図の樹形図については「財団法人サンワみどり基金（1981）樹の本」から引用・改変

木に逢う日々（第6回）「砂漠化防止、今後の活動課題」

当保全センター　ＧＳＳ　野々山 富雄

（前回からの続き）

しかしながら「金属製改良カマド」の性能が良くても、それがすぐに普及するというわけではありません。

従来の三つ石カマドにも多くの利点があります。漏れ出でる炎は照明替わりになりますし、煙は虫よけになる。アフリカといえど、夜は寒くなることもあるので、暖も取れる。

改良カマドが優秀であっても、必ずしもすぐに普及に繋がるとはいかないのです。

金属製なので丈夫ですが、毎日煮炊きをするカマド。長く使ってみなければ、耐久性もわかりません。

また現地では薪集めや調理はすべて女性の仕事。外国人とはいえ、男の私が利用を勧めても、なかなか普及には結びつかないのです。

チャドにて

課題は山積みでしたが、粘り強く現地に溶け込んでいくことこそ、最も肝要なことでしょう。

私が活動していたチャドは日本人にはあまりなじみのない国です。内乱が続き世界最貧国のひとつでもあり、日本と国交はあるが、大使館もありません。

日本外務省の方針として紛争国には介入しないという原則があります。従って青年海外協力隊も派遣されていません。

しかしながら、そんな貧しい大変な国だからこそ、チャドの人達は援助を求めています。

植林や改良カマドなど、様々な面でこれからもアフリカに関わっていきたいと思います。